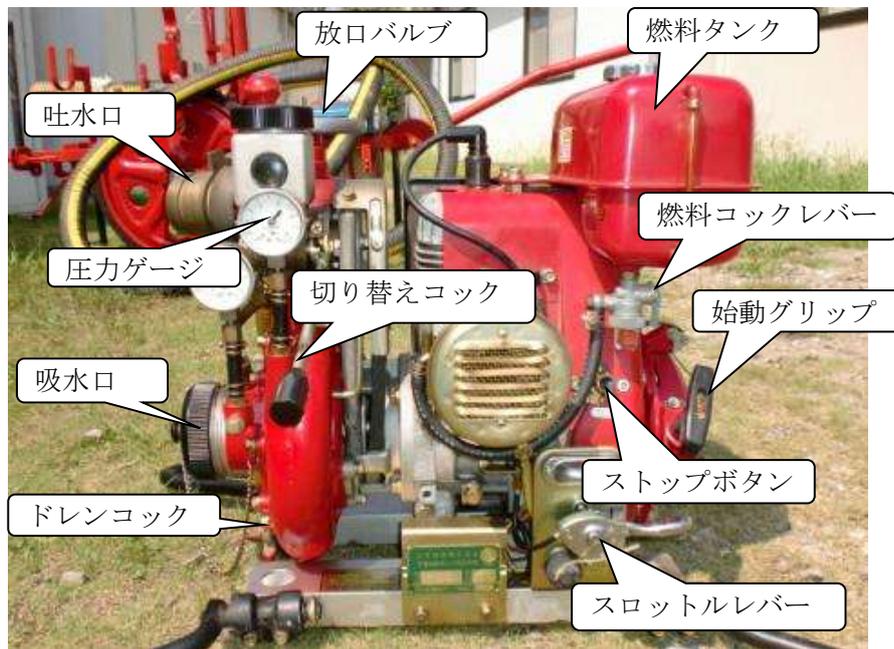


取扱い説明(可搬ポンプ:ラビットP380L)

【各部名称】



【使用上の注意】

※取扱い説明書より抜粋

○吸水上の注意

- ・できる限りポンプは水平にして運転する。
- ・給水管の結合は完全にする。
- ・揚水終了後は「切り替えコック」を放水の位置に合せる。

○放水上の注意

- ・放口バルブ及びスロットルレバーの開閉は徐々に行うこと。
- ・エンジンの状態を常に注意する。

○管理上の注意

- ・ポンプ内は完全に排水した上で、保管してください。
- ・月1回5～10分位の放水運転(スロットル高速)を心がける。

○その他の注意

- ・使用時は砂その他の異物を吸い込まないようにする。(ストレーナー、藤かごを付ける)
- ・藤かごの位置は水面下30cm以上にする。
- ・泥水、海水を使用した後は清水を通して清掃すること。

取扱い説明(可搬ポンプ:ラビットP380L)

【可搬ポンプのかけ方】



①燃料タンクに燃料が入っている事を確認します。

※燃料は、ガソリン:2サイクル専用オイル=30:1を使用します。

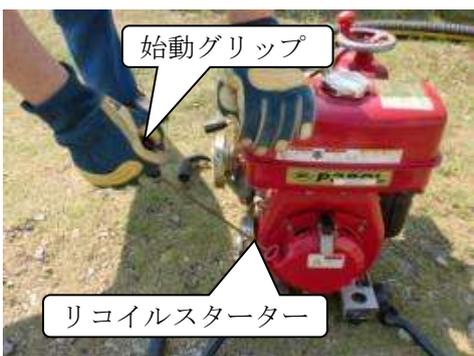
②燃料コックレバーを「ON」の位置に合せます。



③スロットルレバーを「起動・真空」の位置に合せます。



④チョークレバーを「閉」に合せます。



⑤始動グリップをしっかり握り約50cm引出して、引きが重くなる位置からリコイルスターターを勢いよく引くとエンジンがかかります。

⑥エンジンが起動したら、チョークレバーを「開」に合せます。

取扱い説明(可搬ポンプ:ラビットP380L)

【可搬ポンプのとめ方】



①スロットルレバーを「低」の位置に合せます。



②ストップボタンを押し続けるとエンジンが停止します。



③エンジンが停止したら、燃料コックレバーを「OFF」の位置に合せます。

※燃料は自然に劣化するため長期間使用しない場合は、燃料を抜いてください。
古くなった燃料は、故障の原因となります。

取扱い説明(可搬ポンプ:ラビットP380L)

【揚水及び放水】



①ドレンコックが閉まっていることを確認する。



②放口バルブが閉まっていることを確認する。



③吸水管を可搬ポンプの吸水口に取り付けます。

④吸水管を水源に投入します。

※給水管先端から空気が混入しない深さまで投入します。(水深30cm以上)



⑤ホースを可搬ポンプの吐水口に取り付けます。

※接続後にホースを引き、抜けない事を確認します。



⑥スロットルレバーを「起動・真空」の位置に合せ、エンジンを起動させます。

※起動方法については、P.2【可搬ポンプのかけ方】を参照



⑦エンジンが起動したら、切り替えコックを「吸水」位置(水平)に引き上げ、真空ポンプを作動させます。



⑧可搬ポンプ下部より水が吐出したら、切り替えコックを「放水」の位置に戻します。



⑨放水バルブを徐々に開くと放水を開始します。



⑩放水したらスロットルレバーを徐々に「高速」に近づけ、圧力ゲージを見ながら水圧を調節する。

※いきなり「高」の位置まで水圧を上げると危険です。圧力の操作には、十分注意してください！

【一時停止】



①スロットルレバーを「低」の位置に合せます。



②放口バルブを閉めます。

【放水再開】



①放口バルブを開けます。



②スロットルレバーを徐々に「高速」の位置に近づけると放水を再開します。

